

## Special Essay

せいじゃくかんが  
静寂閑雅

GC/MS 医学応用研究施設 猪口 隆洋

「静寂閑雅」(せいじゃくかんが)。静かでひっそりとしていて、雅やかな風情や趣があり、どこことなく格調高い品格を持っている。私が抱いている図書館のイメージである。そういえば久しく医学図書館へは行ってない。以前はよく利用させて頂いた。特に入り口に通じる廊下脇の休憩室へは、ほぼ毎日のように足を運び、備え付けの各紙朝刊に目を通しながら、情報収集と称し仕事前の一時の休息を取っていたものである。中でも日本経済新聞は、経済はもちろん政治、社会、科学、医学、芸術、文化、スポーツ、芸能などあらゆるジャンルについて、どんな些細な事でも最新の情報を提供してくれる。経営経験など一切なく投資家でもない私だが、この新聞を読むとちょっとだけ博学になったような気分を与えてくれる。今でもお気に入りの新聞である。

先日、武雄市立図書館に行ってみた。トレンドィーカフェやDVD、CDなどレンタル商品も揃えた複合型書店等が併設されている今話題の図書館である。飲食しながら、蔵書はもちろん書店の新書も自由に無料で閲覧できるのが最大の売りようで、館内に入ると、図書館との境界や「お静かに!」、「館内での飲食厳禁!」などの表示はなく、むしろ書店の中に図書館が併設されている感じである。コーヒーを飲みながらの読書や雑談、イヤホンで勉強(?)している人、子供たちの楽しそうな声など、そこには開放的で賑やかな空間が広がっている。市民の憩いの場(サロン)の一つとして、これからの新しい図書館の姿なのかもしれないが、保守的感覚が強くなってきている古い人間としては、開放的な賑やかさの中での飲み物片手の読書には躊躇を覚える。

電子ジャーナルの時代、より図書館の有効活用が期待される医学情報教育センターの設置が切望されている。久留米大学医学図書館は、その中に併設される形で存続することになると思われる。図書館との垣根は取り払われ、より自由で開放的な医学図書館として生まれ変わるであろう。しかし、最高学府の図書館として市民図書館とは一線を画してほしいと願っている。そして館内には、私の中での図書館必須のアイテム「お静かに」と「館内での飲食厳禁」の立て札は、是非、残してほしいものである。

学生の皆さん、デジタル情報化社会の中であってファーストライフを余儀なくされる今こそ、質の高い勉学と癒しの時空を求めて、スローライフな一時を味わえる「静寂閑雅」な久留米大学医学図書館に足を運んでみませんか。